

⑨ ワクチン開発の前提としてのモニタリング 体制の拡充 (案)

令和3年5月25日

厚生労働省、文部科学省

ワクチン開発に向けた感染症発生状況のモニタリング体制について

現 状

● 国内における感染症の発生状況

- ・ 未知の重症疾病については、感染症法に基づく感染症発生動向調査における**疑似症サーベイランス**のスキームで早期検知体制を確保
- ・ **新興・再興感染症データバンク事業**により、臨床・ゲノム情報を収集、ワクチン等の医薬品開発に活用する体制を構築（R3年度～）

● 海外における感染症の発生状況

- ・ 世界保健機関（WHO）出向者や在外公館の保健アタッシェ、国際保健規則（IHR）、大学が有する海外研究拠点の他、メディアやSNS等を通じた非公式情報の把握等を通じて海外の感染症の動向について把握

課 題

目指す姿

検討の方向性

1

海外での感染症発生
の初期段階における
確度の高い科学的知
見の入手が困難

- ・ 国際的な公衆衛生インテリジェンスの収集・集約（ネットワーク構築）
- ・ ワクチン等の医薬品需要まで見据えた包括的リスクアセスメントの実施

- ・ 大学が有する海外研究拠点や他国（例：米国NIH）との連携強化、人材派遣等による分野を横断した積極的な公衆衛生インテリジェンスの収集体制の構築の検討
- ・ ワクチン等の開発を推進すべき重点感染症を指定する体制の構築の検討

2

感染症発生の初期段
階における検体の入
手が困難

- ・ 海外検体の早期確保
- ・ 海外検体を用いたワクチン等の研究開発の推進

- ・ 大学が有する海外研究拠点での検体入手・解析の検討
- ・ 受け入れた海外検体を用いてワクチン等の開発を進めるための実験施設（BSL施設）施設の整備のあり方の検討

3

現状では、データバ
ンクの対象は新型コ
ロナウイルスに限定

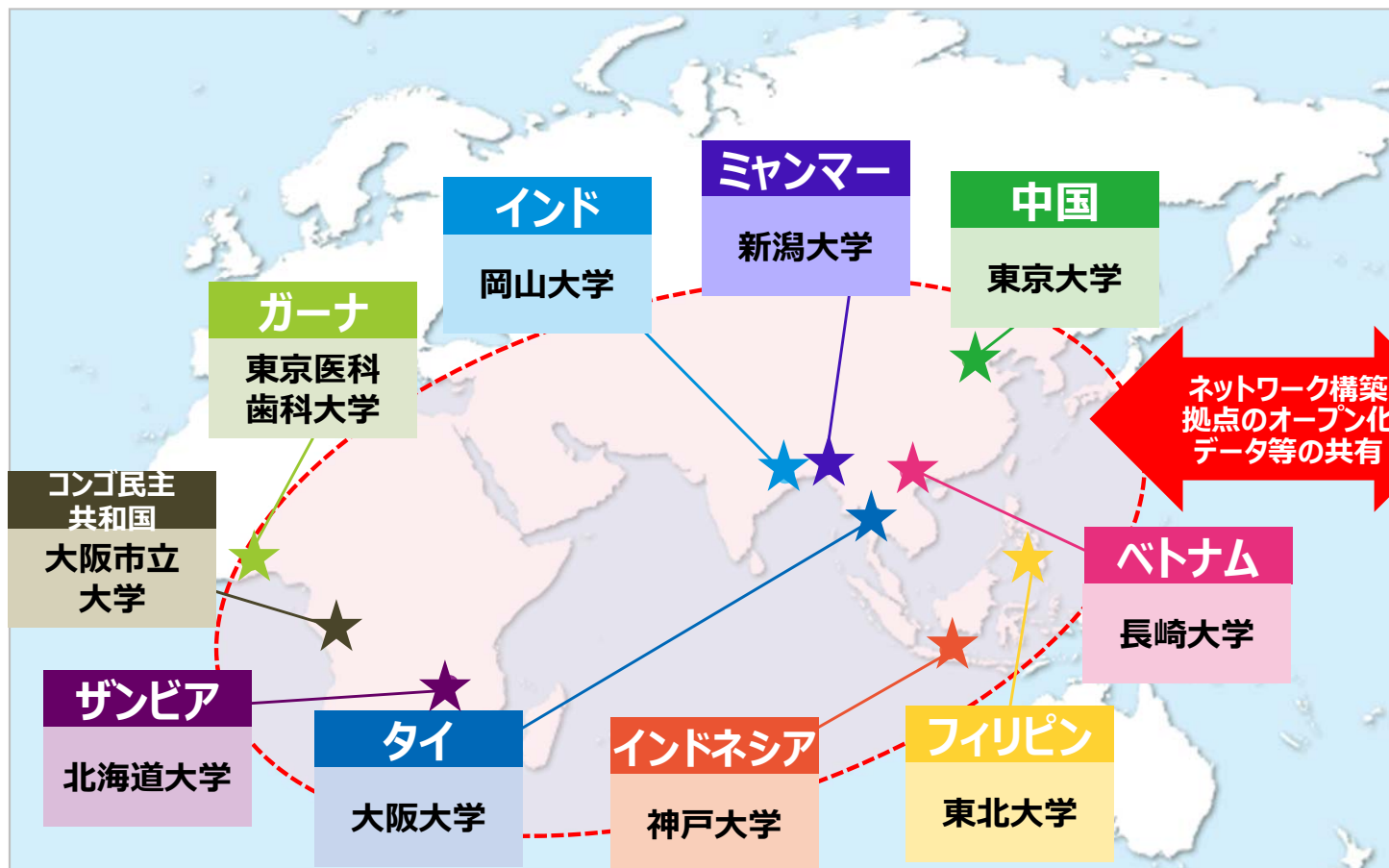
- ・ データバンクの他のパンデミックリスクのある病原体への拡大
- ・ データバンクを用いたワクチン開発

- ・ データを収集する対象のあり方等の検討
- ・ データバンクを活用した研究開発を推進するための体制の検討
- ・ バイオリソースとしてのウイルスの保管方策の検討

感染症流行地の研究拠点における研究の推進等

- 我が国の研究者が感染症流行地でのみ実施可能な研究を支援
 - 海外研究拠点と国内外の大学、国立感染症研究所及び国立国際医療研究センターをはじめとした研究機関をつなぐ多点間ネットワークの構築、研究拠点・データ等の利用（拠点のオープン化、データ等の共有化）
 - 海外における研究・臨床経験の提供等を通じて国際的に活躍できる人材を育成
- ⇒ 海外での検体収集・分析のみならず、国際的な公衆衛生インテリジェンスの収集・集約にも貢献

<海外研究拠点※>



<日本国内>

- 国立感染症研究所
- 国立国際医療研究センター
- 感染症研究国際ネットワーク※
〔北海道大学、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、大阪大学、大阪市立大学、神戸大学、岡山大学、長崎大学〕